◆平成 27 年度の活動方針

自然体験学習の様子

ビオトープ・イタンキの活動の中で植樹などの「自然回復の促進」と並んで最も重要なのが子ども達の「自然体験学習」です。 造成の始まった早い段階から海陽小や絵鞆小が参加していますが、年を追って参加校が増え平成26年度は海陽小、絵鞆小、 高砂小、 知利別小、 本輪西小、 白鳥台小が参加しました。 いつも大人気で子ども達は「獲物のあるビオトープ」での小さな狩の体験に夢中になります。 この楽しい体験を通じて地域の自然への関心が育ち、 やがて地球環境を考えることのできる大人に育ってほしいと願っています。

この「自然体験学習」は学校の授業として行っていることなので、 通常は一週間ほど前に教室での事前学習を行います。 水槽に入れたドジョウやヤゴなどの生き物も持込み、 画像を使って解説し、 ビオトープ・イタンキの成り立ちとそこに生息する動植物について予備知識を持ってもらいます。 同時に子ども達からの質問も受けるのですが「一人一問」だったりするので、 中には答えに窮する質問もあります。

「ビオトープで見つかる虫の数は、 どのくらいですか？」（答）多過ぎてわかりません。
私の虫の居所が悪い時には「そんなの自分で数えろよ」と答えそう。 あぶない！あぶない！
中には刺激を与えてくれる良い質問もあります。
「カブトムシやクワガタはいるんですか？」（答）いません。 セミもまだいません。 今植えている苗木が育って林が広がってくると、 やがてセミが移り住んで来て、 鳴き声がきこえるようになります。
その木が大きく育って枯れるころになると、 その朽木を餌にするクワガタもすめるようになります。
クワガタは深い森の生きものです。 みなさんがおじいさん・おばあさんになるころにはイタンキがそうなるかもしれません。

新たにビオトープの仲間になったフキバッタの幼虫

平成23年に造成が完了してからは、 イタンキでの活動の柱は「自然回復の促進」と「自然体験のサポート」です。 標題のように「今年度の活動方針」について書こうとする時はいつもいつも同じこの2本の柱について書くことになります。 マンネリだ～！！と思ったりするいっぽう、 木を育てる・森を育てるという息の長い活動は「倦まず弛まず」続けるこのマンネリこそが「力」だ、 と思い直したりしています。

クワガタはさすがに無理ですが、 もしかしたらセミの声は聞くことができるかも知れません。 これまで造成に合わせて、 トミヨやエゾホトケ、 アキアカネやミヤマアカネの導入を図ってきました。 カシワやミヤマハンノキの生長につれゼフィルスの種数も増えてきました。 数年後の「発声」を期待して、 そろそろセミの導入の研究に着手する時期かもしれません。（ 大西　勲 ）